

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないこと。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けること。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下とすること。

NITS・教職大学院・ 教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：山口大学教育学研究科（教職大学院）、教職員支援機構（NITS）山口大学センター 連携機関：山口県教育委員会、山口県 PTA 連合会、山口県弁護士会 事業名：【NITS・山口大学教職大学院・山口県教育委員会コラボ研修】 「学校と自身の「リアル」に気づき、変化を生み出すワークショップ（NITS カフェ）」 開催日時：令和 7 年 12 月 27 日 9:00～17:00 開催場所：公立学校共済組合山口宿泊所「セントコア山口」(山口市湯田温泉 3-2-7) 参加人数と属性：午前・午後のべ 129 人 午前 学校教職員 26 人、学生 19 人、県教委 1 人、大学教職員 16 人、講師 1 人 計 63 人 午後 学校教職員 22 人、学生 17 人、県教委 1 人、大学教職員 15 人、保護者等 11 人 計 66 人
--	--

目的：

教育現場で教員が立ち向かう問題は個別具体的である。教員は自身の経験を元に、知識や技能を総動員し問題解決に向かう。そして、対処を振り返り、考察し、自身へ言い聞かせたものが新たな経験（教訓、持論や勘）となり次の教育実践の元となる。しかし、それらの経験は合理や科学、学校外からの視点、関係法令や公共規範に照らして適正、的確と断言できようか。持論（一部の経験や断片的理解等）と実践の往還の中で教育活動が動く時、それは独りよがり教育とは距離あるものとなり、あつれみやトラブルを生みかねない。

本事業では、教職大学院が山口県教育委員会、山口県弁護士会、山口県 PTA 連合会と連携し、現職教員、教育委員会担当者、大学教職員、保護者や教職志望学生等を対象とするワークショップ（NITS カフェ）を行うこととした。その中で、学校や連携の「リアル＝当たり前、普通、その筈」を無批判に受け入れ踏襲するのではなく、常に合理や科学に照らし合わせながら学び、学外他者の目線や評価を知り、豊かな問いや対話をとおして気づき、変容し、自身の在り方を考え、日々の教育活動を向上させていくことを目的として実施した。

内容：

はじめに、教職大学院の佐々木司専攻長が、NITS と教職大学院、大学と山口県 PTA 連合会等との関わりや歩みについて敬意と謝意を込めた挨拶を行った後、NITS や NITS カフェの紹介、今日のカフェの目的と内容構成等について説明を行い、研修デザイン（全体像）を全参加者で共有した。

引き続き、午前の部として、教員や学校の「リアル＝日常」を学校法務の視点から見つめ、自身の教育指導と関係法令を結びつけるケーススタディー、弁護士の講義演習と気づきの交流を行った。カフェを構成する班は課題とするケースが多校種に関わる内容であることから、校種混合の 10 班、各班 6～7 人で編制した。



ワーク I「学校のリアル（事故・訴訟事例）から私たちの対応を振り返ろう」では、各班で異なる課題（10 事例）をもとに教員の在り方（初期対応や未然防止に向けた課題等）を探究した。グランドルールが大切にされ、共感的、支持的な温かい対話環境の中で、それぞれが積極的に自己を開示・共有し、活発な対話が展開された。同時に、対話後も残るであろう「モヤモヤ感」を専門家（弁護士）の講義演習につなぐよう研修をデザインしていたこともあり、その流れで藤村亮平弁護士の講義演習「教育現場にも法の支配を」を展開した。

藤村弁護士の講義演習は、教育と法律の関係に対する教員・弁護士の視点や考え方の違い、いじめ、子どもの暴力暴言やハラスメントに関する法解釈、法律との距離感と遵法意識に関する専門的知見の教授に加え、カフェの研修スタイルや教員の学びの在り方に沿った問いかけ、クイズや対話がふんだんに盛り込まれ、最後に参加者へのエールと今後の連携・協働への期待が熱く語られる 2 時間となった。

午後の部は、学校、教職員や保護者の「リアル＝見方、見え方」をもとに、参加者と保護者が理想の若手・中堅教員像と一緒に描く対話型ワークショップを行った。計画では、教員と保護者相互の見方や見え方をもとに、1+1≥3 となる関係性づくり、学校と保護者（地域）の連携・協働による学校教育活動の企画構想を予定したが、参加者や保護者から「一緒に理想の先生像を描きたい」との要望もあり、人材育成に視点をあてるようテーマを変更した。班は目指す教員像に校種の特性や人材像の違いが出やすいと考え、校種別の 10 班、各班 6～8 人で編制した。



3 時間に及んだワークでは、全員が事前課題として考えてきたシートをもとに、職務遂行、人間性、組織性、働き方や学外連携について求める姿、目指す姿を発表し合い、保護者も思いや願いを期待を込めて熱く語った。穏やかで寛いだ時間と場所、空間の中で、それぞれが自分事として参画し、班としてのイメージをポスターに表し、全体共有する中で、現職教員は自身や人材育成の在り方を、保護者や大学



教職員は人材育成への貢献の在り方を考える充実したワークショップとなった。

山口県教育庁教職員課の大津久美主査がカフェやちゃぶ台の魅力と先進性と今後の参加者への期待を含めたコメントを、NITS 山口大学センターの和泉研二センター長が謝辞およびまとめの挨拶を行い終了した。



成果：

研修項目・内容ごとの「学びの整理」をメールで収集し、参加者の変容を学びの実感、自身への問いかけと今後への意識から見取った。研修内容、形態、指導・助言者、運営全般にわたり参加者の評価や満足度は高かったが、ここでは、共通言語③、④に関する参加者コメントに絞り、一部を紹介する。

・飲み物を片手に円卓で語り合う形式は、心理的安全性を高め、率直な意見交換を促進する効果が高いと実感した。研修というよりも「対話の場」として設計されていたことで、参加者同士の関係性構築にも寄与したと感じる。対話内容を可視化するツール（付箋、ミニホワイトボード、デジタルボード等）を組み合わせることで、議論の焦点を整理し、得られた知見が個人や組織に還元しやすくなることも考えた。（中学校教員）

・本日のカフェは、午前・午後ともにテーマ設定が明確で、立場や経験の異なる参加者が安心して対話できる工夫が随所に感じられた。講義と対話を組み合わせた構成により、インプットした内容をすぐに自分事として考え、言語化できた点は大きな成果であったと感じている。（小学校教員）

・カフェ形式の研修は、参加者一人ひとりが安心して意見を述べ、互いの考えに耳を傾けながら学びを深めていく上で有効な研修方法と感じた。講義型の研修では得にくい、価値観の共有や内省の深まりが自然に生まれ、教職員自身が「考える主体」として研修に関わることができる点に魅力がある。また、立場や教職経験の異なる参加者が同じテーマについて語り合うことで、自身の考えを見つめ直し、視野を広げる機会となる点も、カフェ形式ならではのよさである。こうした対話の積み重ねは、チーム学校としての共通理解を少しずつ育てていく上で、大切なプロセスではないだろうか。これまで学校の研修では取り入れたことがなかったが、今後は校内研修の在り方の一つとして提案していきたいと考えた。（小学校教員）

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

・ NITS カフェの企画・運営をとおして、教職員の学び、研修を企画する側が学びをコントロールする、追い込んでいくのではなく、学ぶ、研修する個人や集団が能動的に学びや研修づくりに参画し、自ら変化、変容し教育や実践をイノベーションする存在になってほしいとの思いを改めて強くした。

・ 日々の教育実践と研修を往還しながら、自らが「自律的学び手」として成長していける教員になってほしいと願う。企画に際しては、参加者の状況やニーズを出発点に「研修デザインの三角形」を丁寧に描く、豊かな「対話」を保証する、「気づき」を自己変容のチャンスと捉え自他の認知ギャップを学びにつなぐことが必要であり、研修の企画・担当者には「学びを委ねる」包容力と柔軟性が求められると気付いた。

そのためにも、フラットな関係性、班（グループ）の温かく受容的・連帯的な空気感、時間やスペースに余裕のある研修環境を準備することも研修の企画・担当者の務めと気付くことができた。

アイデアや工夫したこと：

・ 参加者の「学びの深まり」を創り出すため、企画段階から、山口県 PTA 連合会、山口県弁護士会や山口県教委（教職員課）と組織的、計画的に連携し、研修目標、内容、過程や方法を共有して進めたこと。

・ 自ら問い、対話に入り込み、省察、新たな気づきや捉え直しをとおして変容に向かう「学びのプロセス」の重視したこと、カフェ形式の魅力である心地よさ、温かさや連帯的空気感を大切にしたこと、ゆとりある時間設定と研修環境（集いやすい場所やゆとりある広さ）確保に努めたこと。

・ 本学「ちゃぶ台」の経験やノウハウを生かし、他校種教員、教委等関係者、保護者や学生等との協働が生み出す「うねり」が新たな発見や捉え直しを生み出すと考え、少人数ながら多様で豊かな学び・対話の場（カフェ）を提供しようと努めたこと。

○ 参加者のコメントや講義資料をもとに、カフェを総括したグラフィックが右図である。アイデアや工夫を加えた成果として掲載する。

知のジャムセッション：令和7年度 NITS-Cafe 振り返りから